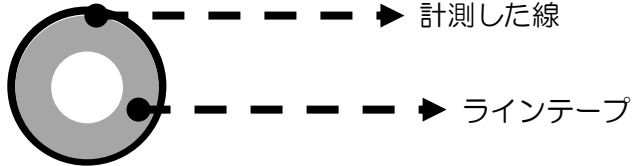


ピン倒しボール確認事項

○コートについて

- ・計測して引いた（チョークなどの）線に合わせて、内側にラインテープを貼る。



- ・必ず、10m×10m（既定の大きさ）が取れるようにコートを配置する。
- ・一部、フェンスの代わりとして、壁を使ったコートを配置してもよい。

○ルール等について

①選手について

- ・選手は、同時に二つ以上のボールを持って（触って）はいけない。必ず、一球投げた後に、次のボールを持つこととする。また、カゴを持ちながら投球してはならない。
- ・投球のスタイルは問わない。（オーバーハンドで直接でも、バウンドでも、転がしてもOK。）
- ・投球の際、空中であれば、手がサークルラインの内側に入ってもOKとする。ただし、投球の際（ボールが手から離れる前）に、サークルライン内に手をつけて投球することは反則である。
- ・投球後（ボールが手から離れた後）、勢い余ってサークルライン内に手をつけてしまった場合は許容するが、同じ行為が複数回見られた場合は反則とする。明らかに手や体をサークルライン内に投げ出した投球が見られた場合は、即反則とする。
- ・選手は、立って投げたり、場所を移動したりする（狙う角度を変える、ボールを集める）ことはOK。ただし、移動の際にサークルラインを踏んだり、中に入ったりした場合は反則となる。
- ・移動する際には、カゴを持ってOK。（選手、支援者どちらでもOK。）ただし、支援者がボールを集めながら移動することはできない。

②支援者について

- ・支援者の座り方は、サークルラインに触れていなければ、スタイルは問わない。
- ・支援者は、移動せず手の届く範囲であればボールを集めてもよい。また、選手・支援者とも、サークルの外から手の届く範囲であれば、サークル内にあるボールを拾ってもよい。
- ・支援者同士のボール供給、または担当以外の選手へのボールの供給は認められない。

支援者の役割は、担当選手へのボールの配給と手の届く範囲でのボールの収集のみとする

③傾斜具について

- ・傾斜具の形状について、特に規定はない。
- ・傾斜具の先端は、セカンドサークルラインに触れてはいけない。空中であってもセカンドサークルラインを越えてはならない。

④除去者について

- ピンの除去や散ったボールの運搬を行うためのピン除去者を、自校から支援者以外に3名まで配置できる。3名に満たない場合、その人数分を支援者が兼ねることができる。
- 除去者が足や体でピンを倒してしまった場合は、速やかに立て直す。倒した本人以外の除去者が直してもよい。
- 投げたボールが倒れているピンに当たり、方向が変わって他のピンが倒れるのはOK。しかし、除去者の足や体に当たって方向が変わったボールによってピンが倒れた場合は無効とし、速やかに立て直す。
- 除去者が故意にボールの方向を変えてピンを倒した場合は反則とする。

⑤選手の交代等について

- 選手交代は、1回目と2回目の間、3回目と4回目の間など、競技と競技の間であれば交代できる。競技中（タイムが動いている間）は不可。
- 大会当日、選手に欠員が出てても、他のチームからの補充は認められない。
（申し込んだチーム以外での出場は認められない。）
- 支援者を必要とする選手が不参加の場合、その選手を担当する支援者は競技に出場はできない。
例）選手5人、支援者5人の登録。当日、選手一人が不参加の場合、支援者も4人となる。
登録していても、選手4人、支援者5人で競技とはならない。

⑥審判について

- HOME開催の競技審判は、研修を受けた職員2名で行う。
- コートの中に入って審判を行う。対角線上に立って審判をする。角のスペースに立つとよい。

* 反則行為があった場合 *

- 反則があったその時点で競技を止めるのではなく、競技終了後（20本倒したまたは2分経過した）に反則があったことを伝える。反則があった場合は、その当該競技の記録は無効となる。

○その他

- HOMEにおいて、自校の判断により、1チーム2ゲーム以内（4回競技以内）で実施する。
- HOMEにおいて、自校の判断により、デジタルタイマー等で時間を表示してもよいが、あくまでも目安の時間表示とし、2分間止めないで表示する。デジタルタイマーで記録を計測はしない。
- HOMEにおいて、審判の合図は各校に任せる（笛、電子ホイッスル、ブザーなど）
- HOMEにおいて、始まりの掛け声は、各校に任せる。
例）「位置について、よーい…ピー（合図）」でも「いきます…ピー（合図）」でもよい。
- サークルを作る際に、距離が正確になるように必ずメジャーで計測する。